

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

エントリー学校名：神奈川県立横須賀南高等学校
(旧：神奈川県立横須賀明光高等学校・大楠高等学校)

活動名：統合事業の取り組み
 ～ふたつの科の統合に必要なもの～

解決すべき課題：【普通科クリエイティブスクールと福祉科を1つの学校にする】
 福祉科という専門学科・普通科クリエイティブスクールという特殊な学校同士の統合

- 2つの「距離」をなくすように努める
 [物理的距離] 2校の所在地の違い・頻りに往来できない・システムの違い→統合における「ハード面」
 [心理的距離] 2校の目指す生徒像の違い・生徒や教職員の意識の違い→統合における「ソフト面」

目標・方針：【「ヒト」が新しい環境に円滑に移れるようにソフト面・ハード面を工夫する】
 ※学校現場における「ヒト」：①生徒（生徒の希望や特性に沿いながら新しいシステムに移れるようにする）
 ②教職員（なるべく業務負担をかけないように意識付けをしていく）

- ハード面の方針：ステップを設けて枠組みを設定
- ソフト面の方針：「ヒト」の交流を大切にしたい楽しい取り組みを設定

活動内容：

【ハード面】○統合2～3年前：各分掌においてワーキンググループを形成し、
 課題の洗い出し・内規の制定・新校制服決定
 ○統合1年前：新制服制定（1学年・1年次より）
 カリキュラム・時間割の検討（単位制・学年制混合の配慮）
 内規の最終確認・入学者選抜（両科で異なる）業務見直し・合同研修

【ソフト面】○統合1年前：校章・校歌の公募（生徒・教職員の参加意識向上）・購買方式の投票
 「部活動交流バス」により、週1回目安に合同練習・生徒会交流
 各学年の担任団の打合せを行い、情報共有
 ○現在：新校校歌披露に向けて職員有志で練習中（教職員の一体感の共有）

活動の成果：（アンケート結果より抜粋）


- 生徒の声
 - ・ 生徒全体は楽しそうに見える。
 - ・ 個々は充実しているように見える。学校全体としては**まだまだまとまらない**ように見える。
- 職員の声
 - ・ 生徒の雰囲気は落ち着いているようにみえる
 - ・ もっと職員間の事前交流を増やしてほしかった。

⇒「ヒト」との交流が大事

アピールポイント（アイデアや工夫）：

【ハード面】○グループをまたぐ仕事は調整をして**職員の負担軽減**
 ○目安箱の設置により**意見の吸い上げ**を行う。

【ソフト面】○公募や投票を行い、全体の**参加意識を向上**
 ○生徒会交流の新聞を作り、**各校の雰囲気**を感じる
 ○文化祭での両校合同企画（普通科高校での福祉科の紹介）



新校マスコットキャラクター
「グルグル」

福祉科（旧 横須賀明光高等学校）
 ○<2 期制>単位制（令和 2 年度入学生より学年制）
 ○「福祉のこころ」をもつ理念のもと福祉に関する基礎的・基本的な知識・技能を習得する。

普通科クリエイティブスクール（旧 大楠高等学校）
 ○<3 学期制>全日制
 ○中学校時代、十分に力を発揮できなかった生徒の力を伸ばす場を提供する学校。1 クラス 30 名以下。入学者選抜で学力検査を課さない。（神奈川県独自の取り組み）

← 全くシステムが違う! →

理念：新しい環境に円滑に移る

難しいところ：2つの「距離」

ポイント：生徒や教職員の周知や理解に時間がかかるものは早めに行動する
 情報共有を密にして、相互に事態の改善に努める。
 客観的分析が大事

職員組織 決定機関

新校合同委員会

管理職

新校準備室

学年・グループ・教科

企画・集約・調整

アンケート結果
 （職員アンケートより）

生徒の雰囲気
 <5 点満点中>
平均 3. 7 点

- ・楽しそう
- ・笑顔がある
- ・リラックスしている

両科の交流



不明 85% 仲がいい 13%

職場の雰囲気
 <5 点満点中>
平均 3. 9 点

- ・仕事がしやすい
- ・職員は協力的

«有効だと思った取り組み»【生徒】部活動交流・制服の共有化・文化祭合同企画
 【教員】合同研修会・目安箱・日常の会話
 «もっと必要だった取り組み»【共通】お互いの交流・研修・意見のすり合わせ

今年度の特殊な事情【新型コロナウイルスによる影響】

- 休業措置によって生徒が新校に 2 か月ほど登校しない状態が続いた。
 ⇒新校の準備（物品移動・職員の意識のすり合わせなど）ができた。
 ⇒両校の生徒交流の機会が格段に減った。
- ウイルス対策などで「従来通り」が通用しなくなった
 ⇒新しい方法を教員間で検討でき、新校の教員としての意識が芽生えた



校歌練習

まとめ：「交流はあってありすぎることはない」
 アンケート結果や職員間の会話などで圧倒的に多いのは
「『ヒト』との交流が大切である」ということ
 ⇒ヒト同士の理解があって（ソフト面が充実して）
 初めてシステムが動く（ハード面が変わる）

今後の取り組み：「ヒト」との交流を活発に

- 普通科・福祉科の交流授業を増やす
- 職員の情報共有会
- 意見集約・改善できる組織の編成